

## 湖の遊覧船を見る(その1) 北海道編

2021-8-18 池田良穂

北海道から東北、関東、中部の湖を巡って各地の遊覧船を見て回りました。

廻った湖は、

サロマ湖→阿寒湖→然別湖→支笏湖→洞爺湖→大沼→十和田湖→田沢湖→猪苗代湖→桧原湖→中禅寺湖→八ッ場ダム湖→諏訪湖の13湖です。

また、途中、小樽、羅臼、釧路港では海洋遊覧船も見ることができました。

これまで湖の船は温泉に行ったついでに見るくらいの興味だったのですが、「日本の旅客船Ⅲ -短距離航路客船-」の発行も終わり、次に「レストラン船と遊覧船」の編集をするかどうかを迷っていたので、実際にこの目で見てみようということで決行しました。

さて、北海道までは、舞鶴から新日本海フェリーの高速カーフェリー「はまなす」を利用して小樽に上陸し、コロナ感染が深刻な札幌周辺は避けて道東から道南を廻り、津軽海峡は津軽海峡フェリーの「ブルーハピネス」でわたり、そこから本州を縦断して湖と温泉に寄りながら大阪まで戻りました。

この間、関西は前線の影響で大荒れでしたが、この旅行の経路上は時々晴れ間も見える天気でした。

### 新日本海フェリーの「はまなす」

舞鶴を深夜 23 時 50 分に出港する「はまなす」に家族 6 人で乗船しました。航海速度 30 ノットで小樽との間を約 20 時間で結びます。ディーゼル駆動のプロペラの後ろ

にポッド推進器を置き、逆回転させることで二重反転プロペラを実現したユニークな船で、就航後、同船の船上で「ポッド推進シンポジウム」を開催したことを懐かしく思い出しました。



舞鶴港では、夏休みとあってたくさんのバイク、乗用車が駐車場に並んでいました。



体温測定をして、体調調査票を記載してから発券されました。





翌日は、昼の日本海を北上しました。この船には見晴らしの良いフォワードサロンがあります。



この航路の最大の楽しみは姉妹船と反航することですが、この日はかなり遠く離れての行き会いとなり、汽笛もならされませんでした。



船上バーベキューテーブル、グリル共に予約で一杯だったので、レストランでジンギスカンを楽しみました。



予定より 30 分以上早く 20 時には小樽に到着しました。車両甲板は乗用車、キャンピングカーで一杯でした。

## 小樽

小樽港は、かつては北海道の海の玄関口として栄えた港町で、かつて海運産業振興のために作られた運河が観光資源となっています。



小樽運河の遊覧船は夜も乗客で賑わっていました。船は 2 隻いました。



小樽港内と積丹半島の遊覧船「あおぼと」



屋形船型の小樽港遊覧船「かいよう」



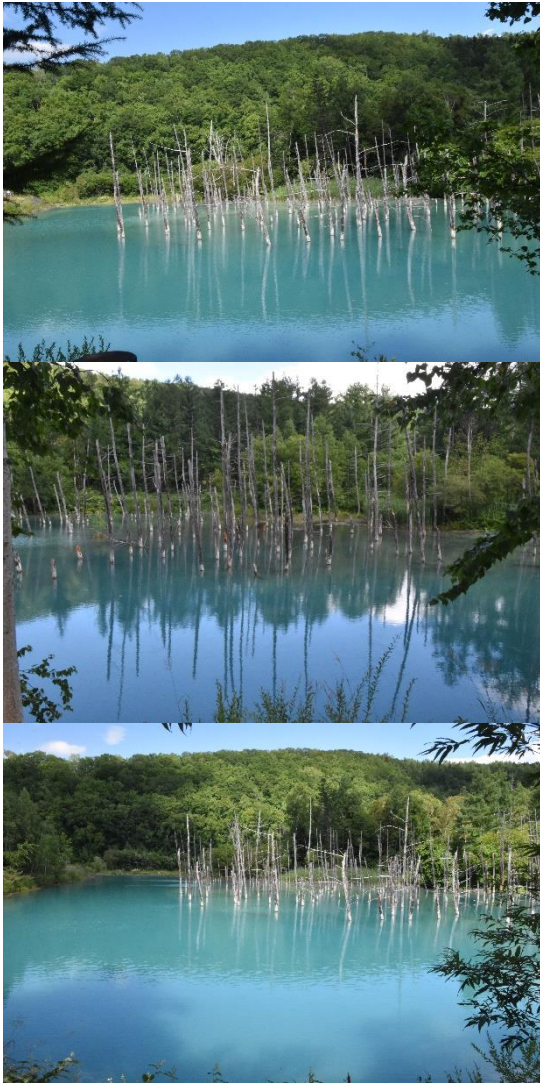
小樽グラスボートと書かれた小型船が港内を疾走していました。

## 美瑛白金温泉近くの青の池

小樽から網走に向かう途中、美瑛の白銀温泉にある青の池に寄りました。山の中にある小さな池ですが、水面の色が太陽の出具合で変わる神秘的な雰囲気が、多くの観光客を魅了しています。

この池には遊覧船はいませんが、綺麗な景色を楽しむことができました。





## サロマ湖

網走のサロマ湖は、オホーツク海と一部が繋がる汽水湖で、ホタテの養殖が盛んです。ここでは2隻の遊覧船がありますが、訪れた当日は乗客がおらずに船は出ませんでした。船主さんの話では、予約があれば船を出すということのようでした。



サロマ湖の遊覧船「アザラシⅡ」(6.1トン)



乗客が少ない時には小型クルーザー「アザラシ」(4.9トン)で遊覧とのこと。



先代遊覧船「あざらし」は陸上保管状態でした。

## 羅臼(らうす)

知床半島の付根に近い位置にある羅臼は、知床観光の基点となる街で大きな温泉ホテルもあります。ここからはたくさんの知床観光船がでています。大型の船では、知床観光船の運航する耐氷型観光船「おーろら」と「おーろら2」が夏場に羅臼起点で、冬場は網走基点で運航されています。小型の遊覧船は多く、知床遊覧船の「Kazu I」と「Kazu II」、フォックスの「Fox Five」、ドルフィンの「Dolphin III」、カムイワッカクルーズやクルーザースターンの船などがありますが、訪問当日は台風くずれの低気圧で風が強く全船欠航状態が続いており、各遊覧船のチケット売り場も閉まっていました。





「おーろら」と「おーろら 2」(490トン)



小型の遊覧船が繋がれている羅臼港の一面



ドルフィンⅢ



Kazu Ⅲ



カムイワッカ

### 釧路港

道東の拠点港である釧路港には夕日観光船「Sea Crane」が運航されていますが、訪問当日は低気圧で大荒れの状態で欠航でした。乗場は、フィッシャーマンズワーフの対岸にあります。



夕日観光船「Sea Crane」

### 阿寒湖(あかんこ)

まりもの生息で有名な阿寒湖は、道東の山の中にありますが、湖畔にあるアイヌコタンや温泉で有名で多くの観光客が訪れ、3隻の大型遊覧船が運航されていました。雨模様となり、出会えたのは「すずらん丸」だけでした。



「すずらん丸」(222 総トン)

### 然別湖(しかいべつこ)

阿寒湖の西に然別湖があり、湖畔にある温泉ホテルが 19 総トンの遊覧船を 2 隻運航しています。阿寒湖から移動して然別湖に着いた頃には、雨もあがり美しい湖面となりました。



ホテルの棧橋に停泊する「第1いさを」(右と「いさを」)



乗客 2 人を乗せて「いさを」が 40 分の周遊に出発しました。



「第1いさを」

## 支笏湖(しこつこ)

苫小牧の北に聳える樽前山の麓にある湖で、2隻の遊覧船が運航されています。コロナの影響で定員を半分にしている運航で、案内所では整理券を配って乗船人数をコントロールしていました。



「エメラルド」



「サファイア」

## 洞爺湖(とうやこ)

北海道最大の湖である洞爺湖は、大噴火によるカルデラ湖であり、湖畔には活火山である有珠山と昭和新山が聳えています。湖畔には温泉宿が軒を連ねて、多くの観光客が訪れています。遊覧船は「エスポアー



大沼の遊覧船群。公園内の橋の下をくぐることから、背の低いリバークルーズ船のような船型をしています。

ル」と「羊蹄」(ようてい)の2隻が運航され、予備船の「幸福」は湖の中に浮かぶ中島に係留されていました。「羊蹄」に乗って中島で下船して「幸福」の写真を撮影できましたが、運航されている2隻の写真も昭和新山をバックに撮影することができました。



昭和新山をバックにした「エスポール」



「羊蹄」



中ノ島に係船されている予備船「幸福」

## 大沼

函館の北にある大沼では、大沼合同遊船が5隻の10～19総トンの遊覧船を運航しています。

